しろね図書館だより

発行　白根市立図書館
No. 53　平成16年10月1日

暑い夏が過ぎ、もうすぐ秋がやって来ます。
秋と言えば、読書の秋・行楽の秋・食欲の秋といろいろありますが、みなさんにはぜひ、〝読書の秋〟と言ってもらいたいです。

図書館では、みなさんが読んでおもしろかった本、すきな本、ほかの人にも読んで欲しいオススメの本、などなんでもいいのでおたよりをお待ちしています。いただいたおたよりは「しろね図書館だより」にて掲載させていただきます。

秋の夜長にぜひいろいろな本をお読み下さい。

オススメの本（過去の「図書館だより」より）を少しだけ紹介

● 「敗北を抱きしめて」上・下　ジョン・ダワー著　岩波書店　（一般210.7ダ）

日本の戦後史を、アメリカの占領を受けた側の日本人の体験を基に外から見た目で語っている一冊。占領期の有名な事件や、著名な人物、政治面での重要な問題のほとんどについて綿密な史料分析を行っており、質・量とも読み応えのある本。

● 「少年動物誌」　河合雅雄 作　福音館書店　（児童 480カ）

動物の好きな人は、子どもの頃の経験が蘇るだろうし、子どもや若い人たちが読めば、動物と関わるという事が、どんなに楽しくかつ厳しいものであるかという事が伝わってくる。竹やぶや、古井戸や、墓場などにいる鳥や虫を探して歩いたり、川の魚を知恵をしぼって捕まえるなどという事を、この本を読んで体験して欲しい

● 「魔法があるなら」　アレックス・シアラー 作　PHP研究所　（ティーン 933 シ）

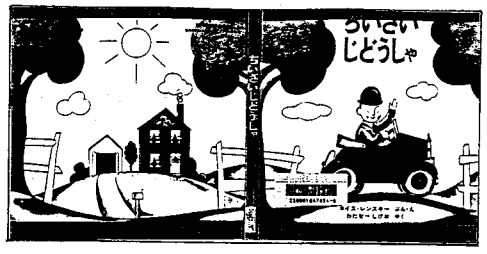
この本の舞台は世界でいちばん素敵なデパート。デパートが舞台でどうなるのか…主人公リビーはママと妹とそこで住み始めるのです。デパートに住むって「一体どうやって？」「どんなふうに生活するの？」興味が湧いてきませんか？ときに厳しく、ときにユーモラスな語り口にぐいぐい引き込まれて、あっという間に読んでしまいますよ。

9月の
来館者（らいかんしゃ）------ 17,447人（視察193人含）
貸出冊数（たいしゅつさっすう）---- 14,580冊
予約件数（よやくけんすう）---- 246件
ブックバス利用者 ----- 509人
ブックバス貸出冊数 ---- 1,390冊

リクエスト情報（しばらくお待ち下さい）
1位・世界の中心で、愛をさけぶ（24名）
2位・ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団（9名）
3位・蛇にピアス（6名）
4位・冬のソナタ 上・下（4名）
5位・千と千尋の神隠し（3名）
他

子どもたちといっしょに

「ちいさいじどうしゃ」
（福音館書店）
ロイス・レンスキー　ぶん・え
わたなべ しげお　やく



スモールさんのもっている〝ちいさいじどうしゃ〟。赤くてぴかぴかでかわいいじどうしゃ。スモールさんはこのじどうしゃがじまんです。じどうしゃにあぶらをさして、タイヤにくうきをいれ、ラジエーターにみずをいれ、スモールさんはドライブにでかけます。けいてきをならして、ばしゃをおいこして、坂道を上ったり下ったりしてスモールさんはどこへ行くのでしょう。

シンプルな絵が目を引きます。色も赤だけしか使っていなく、とってもかわいいです。のりものが好きな子にも、男の子にも女の子にも喜んでもらえる一冊です。ロイス・レンスキーはこの本のほかにも「ちいさいひこうき」、「ちいさいヨット」、「ちいさいきかんしゃ」などを書いています。いずれも単色でかわいい絵、物語です。ご家族でお楽しみください。

第48回読書会　「グリーン・ノウの煙突」（評論社）

L・M・ボストン 作　亀井 俊介 訳

日時・10月17日（日）1:30～3:30，白根学習館 ルーム2

前回「グリーンノウの子どもたち」の続編。シリーズ第二作目。今回は、トーリーが春休みにグリーン・ノウにやってくるところから始まります。さて、今回はどんな冒険が待っているのでしょうか。

10月の行事　ブックバス

1（金）		白根小 13:00～13:50 小林小 14:30～15:30	16（土）	おはなし会 3:00～	新飯田農公 14:30～15:00 戸石公 15:30～16:00
2（土）	おはなし会 3:00～	新飯田農公 14:30～15:00 戸石公 15:30～16:00	17（日）	第48回 読書会 1:30～	
3（日）	早乙女勝元さんの講演会 入場無料 午後2時～4時30分・ラスペックホール		20（水）	第1回 あかちゃんがはじめてであうほん 絵本のじかん 3:00～	新飯田小 12:35～13:20 茨曽根小 13:30～14:30
6（水）	絵本のじかん 3:00～	新飯田小 12:35～13:20 茨曽根小 13:30～14:30	21（木）		白南中 12:55～13:35 庄瀬地C 14:00～14:40 庄瀬小 15:00～15:45
7（木）		白南中 12:55～13:35 庄瀬地C 14:00～14:40 庄瀬小 15:00～15:45	22（金）		臼井中 12:55～13:35 臼井小 14:00～15:15
8（金）		臼井中 12:55～13:35 臼井小 14:00～15:15	23（土）	おはなしがご例会 10:00～ おはなし会 3:00～	大通地C 14:30～15:00 根岸農公 15:30～16:00
9（土）	おはなしがご例会 10:00～ おはなし会 3:00～	大通地C 14:30～15:00 根岸農公 15:30～16:00	27（水）	絵本のじかん 3:00～	根岸小 13:10～13:50 大通小 14:00～15:30
13（水）	絵本のじかん 3:00～	根岸小 13:10～13:50 大通小 14:00～15:30	28（木）		白根北中 13:00～14:00 大鷲小 14:30～15:45
14（木）		白根北中 13:00～14:00 大鷲小 14:30～15:45	29（金）		白根小 13:00～13:50 小林小 14:30～15:30
15（金）		白根小 13:00～13:50 小林小 14:30～15:30	30（土）	おはなし会 3:00～	新飯田農公 14:30～15:00 戸石公 15:30～16:00

『　西の魔女が死んだ　』

梨木香歩（小学館）　　ティーンズ　913ナ

主人公の「まい」は、真面目さとその個性のゆえに人間関係に煮詰まってしまい、学校に行けなくなった女の子。彼女は両親と離れ、田舎のおばあちゃんの家でひと夏を過ごすことになります。英国出身のおばあちゃんは、なんと「魔女」。まいも、魔女になるための修行をすることに。でもこの修行とは、規則正しい生活をして、自分で考え自分で決めてやりとげるというものだったのです。おばあちゃんとの暮らしの中で、まいは次第に傷ついた心を癒し、あるべき自分自身の姿を取り戻していきます。

”自然の中の暮らし”

まいとおばあちゃんとの自然の中での生活が、とても魅力的に描かれています。野いちごを摘んでジャムを作ったり、ラベンダーの茂みの上でシーツを乾かして、その香りのするシーツにくるまれて眠ったり……。四季折々の自然の恵みとともに生きる、いわゆるスローライフを地でいくようなその暮らしに、この本を読んだひとならきっと憧れてしまうのではないでしょうか。

”西の魔女”

このおばあちゃんがまたとても素敵なひとで、魔女というだけのことはあってその言葉には含蓄があります。しかし、彼女を魅力的に見せているのは、魔法を使えるからというわけではなく、その生き様のようなものではないでしょうか。自分自身の中からくる声に耳を澄まし、自分が何者であるかを知り、世間の流行や価値観に惑わされず、自分が理想とする生き方を貫くその姿勢には、凛とした美しさがあります。「魔女とはかくあるべき」と感じずにはおれません。

”一匹狼で突っ張る強さを養うか、群れで生きる楽さを選ぶか”

まいが学校に行けなくなった理由を語る場面があります。自分が自分らしくあろうとすれば、周囲と馴染めなくなるジレンマ。今の時代、そうした悩みを抱える子どもたちも少なくないに違いありません。人間関係に疲れてしまうのは、大人と同じこと。こうした問題に正解などないのだとしても、おばあちゃんのように、見守ってくれる大人の存在はとても心強いものなのではないでしょうか。

ホウキで空を飛んだり、呪文を唱えたり、そんな魔法を使うわけではありません。
「西の魔女」の魔法は、とてもささやかで、けれども素敵な、まるで奇跡のよう。
すがすがしいハーブの香りのするような、そのちいさな魔法は、
あなたのこころにきっと何かあたたかいものを残していってくれることでしょう。

（清水　隆）

第6 回おはなし講習会のおしらせ

「おはなしのかたり」や「絵本の読み語り」の講習会です。

昔話や絵本の楽しさを子どもたちに伝えていきましょう。

日時；１１月７日　講演　午後１：３０～３：３０　　場所；白根学習館ルーム１・２
　　１２月５日　実習　午後１：３０～３：３０　　場所；白根学習館ルーム１・２（予定）
　　１２日　実習　午後１：３０～３：３０　　場所；白根学習館ルーム１・２

定員；先着３０名　　参加費；無料　　＊＊　対象；できるだけ３回続けて参加できる方　＊＊

参加希望の方はしろね図書館へお申し込みください。　☎０２５－３７２－５５１０

第47回読書会

「グリーン・ノウの子どもたち」

L・M・ボストン 作　　亀井 俊介 訳

トーズランド（トーリー）は冬休みを両親と別れ、母方の大おばあさんのいるグリーン・ノア（ノウ）で過ごすことになった。そこに住んでいるのは大おばあさんと庭師のボギスさんだけ。（もっとも、ボギスさんはほかにちゃんと自分の家をもっているのだけれど：）大おばあさんは一人で城に住んでおり、トーリーが来るまではずっと一人だった。トーリーはグリーン・ノアに着いた翌日から探検を始めます。グリーン・ノアでは毎日が発見の連続で家の中では何百年も前の宝箱が出てきたり、庭では魔法の鹿に聖クリストファーの石像…それから…何百年も前の子どもたち！その子たちもすぐには姿を現しませんでしたが、トーリーが大おばあさんの昔話を聞いたり、家や庭をいろいろと探検し発見してグリーン・ノアを自分の家とすることで気持ちが通じ合っていきます。そしてついにはグリーン・ノアの悪魔さえも倒してしまうのです。

しかし、この物語はただ単にファンタジーとして終わっているわけではなく、この物語の中には人間の孤独や生きる喜び、悲しみ、死についてなど、今私たちが生きているこの時代にも起きうるすべてのことが描かれています。

参加者の感想

『幽霊のはなしだと思った。前回の読書会の『二つの国の物語』が強烈で、まだ余韻みたいなものがあって、なかなかこの物語の中に入っていけなかった。台風で停電してろうそくを灯すところやそのろうそくで影絵遊びをするということなんか今の子どもには想像できないんじゃないか」

「家の周りを川が囲んでいるのに洪水になったら沈むんじゃないかなとも思った」

「読み終わったときに、作者のボストンさんは本当に幽霊と遊んでいるんじゃないか、楽しんでいるんじゃないかと思えるようになっていた。日本では幽霊というとおどろおどろしいもののようになっているがヨーロッパでは違うのかなと思った」

「最初読んだとき全く意味がわからなかった。ファンタジーの部分が特に。だけど、おばあさんやボギスが語る昔話の部分などから登場してくるトービーやアレクザンダー、リネットが四百年も前にペストで死んでしまったことやヨーロッパの幽霊＝妖精＝幻ということがはっきりしてきたところからわかりはじめて本の世界に入ることができた。緩やかな時間の中にいて、本当にささいな事にいろんな世界を見いだしていくのが感じられ、ホッとした。この物語みたいに見えないものを見る生活があってもいいんじゃないかということに気がついた」

「今回も登場人物を書き出して読んでいった。この本はなんといっても挿絵がすばらしい。挿絵をよく見てみるといろんなところに小さい発見がみつかるから見ていて楽しい。物語は、幻の人たち、夢の中の世界だと思って読んでいたので自分もすぐに夢の中に入ってしまうことが何度かあったが暗闇のなかでカミナリが落ちて木が燃えて消滅していくところがこの物語のクライマックスじゃないだろうか」

「クリスマスにうずらをプレゼントするということも日本にはない習慣だからこんなささいなことでもヨーロッパの習慣を知っていないと理解できない」

「この本の中には人間の孤独も描かれていて、その孤独から幽霊でもいいから出てきて一緒にいてもらいたいという感じが伝わった。人間は本当の孤独にさらされたらどうなるのかわからない」

「全体的に読み終わってから癒された感じがしたし、なんとなく温かいものに包まれたような感じにもなった」

「この本は夢を与えられる本だ！」

次回は10月17日「グリーン・ノウの煙突」です。今回の続編です。みなさんも幽霊と遊んでみませんか。お楽しみに！　　【小林　友治】